

文献から見た 世相・文化の変遷



第1回 10/18 (土)	「日中の小説のはなし」 講師：立正大学 名誉教授 矢野 光治 氏
第2回 11/8 (土)	「歴史にみる馬と牛 —江戸・明治の日本を中心として—」 講師：立正大学 経済学部教授 高橋 美由紀 氏
第3回 12/13 (土)	「和歌の歴史と万葉・古今・新古今」 講師：立正大学 文学部教授 渡邊 裕美子 氏

- ◆ 場 所 佐野市中央公民館（佐野市金井上町2519）
- ◆ 時 間 各回 午後1時30分～3時00分（午後1時開場）
- ◆ 定 員 各回 先着100名程度 ※1回のみの受講も可能です
- ◆ 受講料 無料
- ◆ 申 込 生涯学習課までお電話・FAX・メールまたは
右の二次元コードよりお申し込みください



【申込フォーム】

- ◆ 企 画 佐野市民大学企画運営スタッフ
- ◆ 主 催 佐野市教育委員会 ◆ 共 催 立正大学
- ◆ お問い合わせ 佐野市教育委員会 生涯学習課（佐野市高砂町1番地）

TEL：0283-20-3109 FAX：0283-20-3032

MAIL：s-gakusyu@city.sano.lg.jp



佐野市民大学ホームページ



FAX 送信票 0283-20-3032

申込年月日 令和7年 月 日

佐野市民大学
生涯学習プログラム開発実践講座

受講申込書

(ふりがな) 氏 名	住 所 (次回以降のご案内等に使用いたします)	電話番号	受講希望講座
	〒		1 日中の小説 2 歴史にみる 3 和歌の歴史
	〒		1 日中の小説 2 歴史にみる 3 和歌の歴史

※ 出席者多数の場合は、適宜枚数を増やしてお申込みください。

※ 受講を希望する講座に○を付けてください。

※ 急な日程の変更や中止が生じる場合があります。

◆ 講 座 内 容 紹 介 ◆

テ ー マ	講 座 概 要
日中の小説のはなし	「小説」という言葉は、もともと『莊子』『雑篇外物』に始まります。雑魚ばかり捕まえるという寓話の中で、小説とは文字通りの「ちいさな説」とであると同時に、「大達」にほど遠い、「つまらない、価値のない言説」というのが原義です。その後中国の小説は、次第に現代の意味する小説へと変化発展をし、日本の『今昔物語集』『宇治拾遺物語』などの説話とも大いに関係します。日中の説話や物語をとりあげて、日中小説の彼我の交流や影響について話をします。
歴史にみる馬と牛 ー江戸・明治の日本を中心として	主に日本を中心に馬や牛と人びとの生活の関わりについての歴史を説明します。その中で世界における馬や牛、またロバやラバなどについてもとりあげます。ひとの暮らしに重要な役割を果たしてきた動物たちですが、歴史的にそれらの用いられかたは変わってきました。江戸時代を中心としてその前後の時代もとりあげ、社会の変化とともに生じた家畜たちの変遷をも考えます。
和歌の歴史と 万葉・古今・新古今	日本には、長い短詩型文学の歴史があります。もっとも古い詞華集は『万葉集』で、それは、およそ1300年前に成立しました。その後、平安時代に『古今和歌集』、鎌倉時代初期に『新古今和歌集』が成立します。この3つの歌集の歌風を「三大歌風」と言ったりしますが、それぞれ具体的にはどんな歌風なのでしょうか。本講座では、よく知られている『百人一首』に入っている歌を取り上げて、この3つの歌集がどのような特徴を持っているかについてお話しします。